



## 1 【訃報】小沢一彦名誉理事長 逝去

当財団名誉理事長の小沢一彦氏が、2月13日に逝去されました。享年87歳でした。ここに謹んで哀悼の意を表し、お知らせ申し上げます。



故・小沢名誉理事長は1978年に横須賀ロータリークラブに入会。2000-01年度国際ロータリー第2780地区ガ

バナー、2007-09年度国際ロータリー理事、2010-14年度ロータリー財団管理委員会委員など、ロータリーにおいて要職を歴任されました。

2014年9月から当財団の第六代理事長をお務めいただき、2018年9月からは名誉理事長として、当財団の活動に多大なるご尽力をいただきました。「米山奨学事業の宝は米山学友である」と語り、数多くの米山学友と交流されました。

小沢氏の長年のご貢献に感謝し、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

## 2 4人目の紺綬褒章受章者が誕生

国際ロータリー第2770地区岩槻東ロータリークラブの杉田政男氏が、昨年12月21日付で紺綬褒章を受章されました。

紺綬褒章は公益のために私財を寄付し、その功績が顕著な個人や団体に対し、天皇陛下から授与される褒章です。当財団では2018年9月に公益団体認定を受けて以来、4人目の受章者となりました。

杉田氏は2003年2月に日本赤十字社へ多額の寄附をした功績により初めて紺綬褒章を受章されており、今回、異なる支援先として当財団

へご寄付いただきました。

杉田氏は今回の受章について、「ロータリーで学んだ社会奉仕の精神に基づき、日本で学ぶ外国人留学生を支援する事業に賛同し、一人でも多くの学生を受け入れることを望んでいます」と述べられています。



心より感謝とお祝いを申し上げます。

## 3 寄付金速報 — やや低調傾向に —

前年同期比

-9.7%

普 -2.1% 特 -13.3%

2月末までの寄付金は前年同期と比べて9.7%減（普通寄付金:2.1%減、特別寄付金:13.3%減）、約1億1,320万円の減少と

なりました。今月の寄付金は、前年度の初めに高額寄付をいただいたことによる影響を差し引いても、やや低調な結果となりました。来月以降は新規米山奨学生に関する行事も増加してまいりますので、引き続き皆さまのご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

### 当財団は「紺綬褒章」の公益団体認定を受けています

当財団は2018年、内閣府賞勲局より「紺綬褒章」の公益団体認定を受けました。

個人では500万円以上、団体、企業等は1,000万円以上をご寄付をいただいた方で定められた条件を満たす場合に、紺綬褒章の授与申請が可能です。紺綬褒章の申請に向けたご寄付を検討されている場合は、**あらかじめお申し出ください**（分納も可）。詳しくは当財団事務局まで。

## 4 マレーシア米山学友会 総会開催

2月15日、マレーシア米山学友会総会がハイブリッド形式で開催され、会場に28人、オンライン7人の計35人が参加。また、日本からは第2500地区&2510地区米山学友会会長の陶惠栄さん

(1997-98/札幌幌南RC)、第2580地区米山学友会会長の楊子明さん(2002-03/東京新橋RC)



が参加しました。

総会は黄建榮さん(1998-2000/室蘭東RC)の挨拶で始まり、各種報告が行われました。同学友会は、日本留学を希望するマレーシアの学生に対するサポートに力を

入れており、活動報告では留学フェアでの取り組みなどが紹介されました。

## 5 タイ米山学友会 総会開催

2月22日、タイ米山学友会総会がバンコク市内で開催され、米山学友のほか、日本からロータリー会員3人が駆け付け、参加者は計32人となりました。

総会は同学友会会長のペチニン ナレスさん(1994-96/越谷RC)の挨拶で始まり、各種報



告が行われました。活動報告では、2024年8月に発生した大雨・洪水によりタイ北部を中心に大きな被害が出たことについて、同学友会が取り組んだ被災

地域への支援活動などが紹介されました。

## 6 ベトナムの子どもたちに自転車を 第2620地区学友会

2月22日から25日にかけて、第2620地区米山学友会の4人がベトナム北中部のタインホア省バートウオク郡にあるラム・サ小学校チャン村分校を訪問し、1年生から5年生までの33人へ自転車の寄贈を行いました。

この奉仕活動は、昨年ベトナムに大型の台風が上陸し、同学友会に所属するレー チュオンロクさん(2020-22/甲府南RC)の地元であるタインホア省が大きな被害を受けたことが分かり、被災地の子どもたちが安心して学べる環境を整えるために企画されました。

自転車を受け取った生徒たちは喜び、日本語で「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えてくれたそうです。小学校の先生によると、学習環境



小学校の朝礼に参加し自転車を寄贈

が不十分であることに加え、毎年のようにやって来る台風の被害で苦しい状況にあるとのこと。通学に苦勞する子どもたちの負担が軽減され、勉強に励むことができるようになるとして、「このような支援を受けることができ本当にありがたい」との言葉もらったそうです。

同学友会副会長で、現地を訪問したファムゴックアンさん(2020-21/浜松南RC)は、「まだまだ困難な状況に置かれている人々がたくさんいることを改めて実感しました。サポートいただいたすべての方々の力を合わせたことで実現できた奉仕活動であり、大きな達成感を感じています」と述べました。



自転車を受け取り喜ぶ生徒たち